

大會宣言(草案)

五二

一 我等同志が全國労働組合同盟の旗の下に血盟して以來、まさに、一年有半の歲月が流れた。我等はこゝに、第二回大會に相會して、あわたくししく過ぎ去つた闘争の跡を批判し、更に、現下の世界並に國內の客觀的諸情勢を分析し、適確なる認識と倍加する熱意とを以て、新たなる闘争に進出するの態度を宣明せんとする。

二

一昨年秋、アメリカ合衆國に突發した經濟恐慌の新たなる怒濤は、たちまちにして、資本主義下の全世界を襲ふた。資本家階級の必死の景氣挽回運動にもかゝららず、恐慌は慢性状態に陥り、その進行は、當初の産業部面から、或は金融部面へ、或は國家財政の破綻へ、或は貨幣制度の混亂へ、そして最後に政治的破綻へと、底知れずに深刻化した。いまや、世界恐慌は資本主義社會制度のあらゆる部面にわたつて、その破壊力を振ひ、全資本主義社會は一大危機に當面してゐる。

かゝる世界資本主義の危機は必然に労働者、農民、植民地民衆に對して莫大なる犠牲を強要した。世界主要國の完全失業者は本年當初に於て、既に三千五百萬に達し、前年の同期に倍加する數字を示してゐる。就業労働者の賃金は生活費以下に切下げられるの激減を示してゐる。しかも、なほ、失業と賃銀切下げは底止する所なく進展し、世界恐慌の破壊力は、まさに全労働被壓迫大衆の生活を根底より覆へし、餓死に迫ひ込まんとしつゝある。

四

我が全國労働組合同盟は、その創立に當つて、我等の闘争の根本方針を新たなる世界恐慌の擴大深化の段階——帝國主義第三期を對象として樹立し、この同盟の立場を、過渡期の我國労働組合運動内に於て一定の限界と基準の上に立つ大衆的闘争組織なりとして規定した。我等は今日、世界並に國內の客觀的諸情勢の推移を通觀するとき、その推移の極めて急速なるものありとはいへ、我等の見識しの上には何等の變更を必要としないことを誇りとする。我が同盟の根本方針と立場は、今後、益々重要性を加へて來た。

思ふに、現下の如き情勢に於ては、無産階級の利害を眞實に代表する労働組合は、一面に於ては、絶えず未組織大衆の生長と結合して最も廣範に労働大衆を組織化し訓練すると共に、他面に於ては、理論的實踐的に透徹せる解放への闘争方針を把持するものでなければならぬ。我等の同盟の標榜する階級的大衆の組織とはかゝる兩面を一つの具體性に於て具備することを必須條件とする。かゝる具體性に於て缺くるとき、それは我同盟の死滅であり、同時に、我國の労働運動發展上に一頓挫をもたらすものたることを確信する。しかし、このことなる、言ふに易くして、行ふに至難のことである。我が同盟は、過去一年有半にわたり、或はストライキ闘争に、或は大衆の組織化の活動に、或は、理論的並に實踐的教育に於て、献身的努力を捧げて來た。だが、これらの活動は、尙始ど初期のそれに屬し充分の効果を示してゐない。來るべき一年間の新しき闘争を通じて、かゝる理想を實現することは、實に我が同盟、全生命であり且つ、我が國の労働大衆と労働運動に對して我等の負ふ義務である。

我が同盟は今後來るべき一年間、同盟全員の協力と、更に、我等と志を同じうする全僚友團體との協同によつて、この使命の遂行に邁進せんとする。

「首切り賃銀値下げ工場閉鎖絶對反對」